

道の駅常総視察報告書

- 1 日 時 令和6年1月26日(金) 13時～14時20分
- 2 場 所 道の駅常総（茨城県常総市）
- 3 出席者 議員12名、事務局1名、農政課1名
- 4 説明者 株式会社TTC 河越 雄貴取締役 田村 典靖事業推進本部副本部長
- 5 調査事項 施設の視察、㈱TTCの企業概要、道の駅常総の事業概要等

6 調査報告

株式会社TTCについて感じたこと

- ・若手社員の発想や企画力を重視しており、フットワーク軽く事業展開している印象。
- ・「途中撤退はない」と断言できるところに、意欲的企業であることが伺える。
- ・接客、接遇がきちんとしてきている印象。
- ・企画力、販売力に長けているとともに、商品開発が非常にうまいと感じた。
- ・創業から46年間実績を伸ばしており、期待できるのではないかと感じた。町民にこの実績を知らせることが大事なのではないか。
- ・地域に根差し、地域と一緒に発展していくという理念を持ち、それに沿った事業展開をしていることはすばらしい。



道の駅常総の視察で感じたこと

- ・平日なのに食堂には行列で驚いたが、石川町と比較して立地条件の良さ、所得の高い客層に恵まれていることなどの利点があることは否めない。
- ・食事処、土産品などそれぞれに目玉商品があるほか、商品陳列の工夫や個数限定販売などにより、客の購買意欲をそそる仕組みがある。さらには「○○ランキング1位」などのポップにより、商品のおいしさへの信用度を高めている。
- ・地場農作物の販売（20%）がどう定着するかは、長い目で見る必要がある。
- ・平日は7：3で地元客とのことで、30代～40代が多かった。石川町道の駅では、平日にどれだけ周辺市町村から客を呼び込めるか・・・
- ・地元の生産者・加工業者等との連携がうまくいっている。
- ・地元土産品の表示をしてアピールするなど、客に安心感を与えている。



道の駅常総で行われている事業、取り組み等で石川町道の駅でも生かせると思った点

- ・生かせる点はない。地域環境・交通状況が違いすぎる。
- ・地元採用を重視しているのもので、若い人が働ける職場が提供できる。
- ・地元生産者とコラボ商品の開発が期待できる。町内にはそれぞれで名物を持つ菓子屋があるので、TTCとコラボして商品開発し、お土産品の充実につなげられるのでは。
- ・石川らしい特産物(リンゴとのこと)を特化していくことはいいこと。
- ・地域で生産される米、野菜、果物、牛肉等を生かした商品開発に期待。
- ・焼き芋のつぼ焼きがあった。石川では鉾物の遠赤外線で焼くのもいい。石川牛を焼いてもいい。
- ・店内工房でつくってきた商品の販売、目の前での実演販売、目を引くモニュメント、丁寧な接客対応など。



その他

- ・地元産だけでなく、他地区の物が多く陳列されていた。石川町道の駅では、町内の農産物や加工品を安定的に供給できる仕組みづくりと、売れ残りを返品しないシステムづくりを願う。
- ・オープンして2～3年後の道の駅の研修ができれば、運営の経過も見れていいのでは
- ・石川町道の駅が若い人へのアピールにつなげていければ、町に元気を与えることにつながる。
- ・商品開発、地元雇用、地域との連携など、すべて有言実行で。
- ・成功は当たり前。石川町の未来は道の駅にかかっている！
- ・常総と違い、石川町道の駅は首都圏に近くないので、観光客等の誘導が重要。
- ・石川町が何のために道の駅整備に取り組み、メリットはどのように表れるのか、町はTTCに何を期待するのか、町はどんなサポートをするのかなど、まだまだ町民に伝えることは多い。
- ・田村推進本部長と二人だけで話しをする機会があり、その主なことは・・・
 - I 出荷者との契約開始は、過去の経験から6か月前ぐらいに集中してやるのがいい。時間をかけない。
 - II 出荷者の組合体制は、個人契約としている。TTC方針の承諾までに時間がかかる、組合役員等の手当てがかかる、組合の意見が強くなりコストが上がるなどのため。過去に失敗の経験がある。
- ・逆算投資について質問したが、曖昧な返事で気になった。
- ・契約期間15年は責任を持って運営するとのことなので、プロのノウハウと町にある資源を生かしながら、今あるものをさらにPRし、新しいカタチに変え、町の交流人口・関係人口が増えることを期待。
- ・出荷者とトラブルにならないか。メンテナンス料の問題は。数年後に店舗の改修が必要になると思うが、その点は。土地代を含めた採算性は。

